

都市計画道路沼津南一色線
設計競技(コンペ)

実施記録



Proud NUMAZU

沼津市

目 次

はじめに	3
1. 目的・概要	4
2. 設計競技実施方法	5
3. 評価経緯、結果	10
4. 総評	18
5. 参考資料	26
アンケート結果	

はじめに

本市は、様々な機能が集約する拠点として発展してきており、豊かな自然や歴史的資源、観光などの地域資源などにも恵まれています。また、大都市圏へのアクセス性が良い立地条件も兼ね備え、静岡県東部の中心都市として発展を続けてまいりました。このような本市の状況において、恵まれた環境や自然、歴史的資源を大切に活用しながら、持続可能なまちづくりに取り組んでおります。

そのような中、都市計画道路である沼津南一色線は、本市北部の玄関口に位置し、本市の南北都市軸を形成する大変重要な幹線道路となることから、インフラ整備を実施してまいりました。一方、都市計画道路の整備計画区域内において発見された高尾山古墳は、古墳時代初期における東日本最古級かつ最大級の前方後方墳であることが判明し、その歴史的価値は全国的にも高い評価を受け、古墳時代の成立を語る上でも重要な遺跡であります。今後、地域資源として高尾山古墳の保存・活用を図るために本市では、国史跡として指定を目指すべきものとして考えております。

このような背景の中、本市では道路整備と古墳保存の両立を図るという難しい課題にチャレンジすることを選択し、その解決策として道路と古墳及びその周辺地域との調和が図れる土木構造物のデザインが重要であると考え、質の高いデザインを追求するため、幅広いアイデアから優れたデザインを求めることが可能となる、「設計競技方式」によるデザインコンペを全国に先駆けて実施することといたしました。

道路整備と古墳保存の両立を図るための整備方針に基づき、橋梁・トンネル及び参考として今後、整備する古墳の保存・利活用等の提案なども含め、全国初の土木デザインコンペを開始したところ、全国各地の技術者の皆様から質の高い7案の設計提案が応募されました。これらの設計提案に対し、十分な専門能力と高い見識を有する学識経験者などの専門家による設計競技実施委員会の皆様から目利きによる評価やご意見をいただき、慎重な議論の上、最優秀提案の決定に至ることが出来ました。この最優秀提案を基に地域住民の皆様へ愛され「誇り高い、元気なまち沼津」の実現のひとつの要素となるよう事業に取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、本設計競技に応募していただきました技術者の皆様、基本計画策定から最優秀提案の決定に至るまでご協力をいただいた委員の皆様及び関係者の皆様においては、多大なご尽力をいただいたことに対し感謝申し上げます。

令和2年4月

沼津市長 頼重 秀一



1. 目的・概要

(都)沼津南一色線は、沼津市の中心市街地への玄関口に位置し、国道1号と国道246号、東名高速道路及び近隣市町をつなぐ主要な幹線道路であることや、国道1号を経て、南部に位置するJR沼津駅や沼津港にもつながっていく、**沼津市の都市構造にとって最も重要な南北道路**である。当該箇所の道路状況は、江原公園交差点周辺の国道1号や周辺の幹線道路の慢性的な渋滞により、渋滞回避のために地域内道路へ流れ込む車両が増加し、通学路等の交通安全性の低下などの課題が山積みしている。このため、本路線が整備されることにより沼津市北部の交通ネットワーク機能が改善され、慢性的な渋滞の解消や地域内道路の安全性の向上が期待されている。

本市では、街路事業として平成8年度から事業に着手し、用地買収も概ね完了した中で、平成17年度から工事を進めてきたが、道路整備区域内で古墳が発見されたため、平成19年度に試掘調査を実施した結果、極めて価値の高い古墳であることが判明した。そのため、平成21年度より工事を一時中断し、古墳の取扱いについて庁内検討を行うこととした。平成27年度から道路と古墳の両立を図るため、関係機関などと協議や打合せを行い、平成29年12月に『**都市計画道路沼津南一色線の整備方針**』（以下、「整備方針」という）を公表した。

(東側2車線を橋梁形式、西側2車線をトンネル形式)

平成29年度に公表した整備方針に基づき、「**道路と古墳を含む周辺までを一体的な空間として設計し、質の高い意匠等を施すことで、良好な景観の形成を図る**」という目的を達成するため、平成30年度に具体的な設計に必要な「基本理念」、「最適な発注方式」、「設計の基本条件」を盛り込んだ『**都市計画道路沼津南一色線道路設計等に関する基本計画**』（令和元年6月公表）を策定した。発注方式については基本理念を鑑み、幅広いアイデアから優れたデザインを求めることができる「**設計競技方式**」を最適な手法とし、**デザインコンペ**の採用を意思決定した。

右下のロゴマークは、平成30年10月に土木学会建設マネジメント委員会が発刊した「**土木設計競技ガイドライン・同解説+資料集**」に準拠している場合に使用が認められているもので、本設計競技が「**土木設計競技ガイドライン**」に準拠していることを示す。

また、**橋梁・トンネルを対象としたものでは全国初の実施**となる。



本設計競技掲載先（沼津市ホームページ）

<https://www.city.numazu.shizuoka.jp/shisei/takaosan/jyoukyou.htm>

2. 設計競技実施方法

(1) 提案を求める内容

ア 橋梁やトンネル等の道路を整備するにあたり、以下のとおり提案を求めた。

(図1：青点線内)

① 橋梁・トンネル、道路附属物等の道路デザイン

イ 古墳の保存・利活用、隣接市有地、周辺道路を今後整備するにあたり、参考として以下のとおり提案を求めた。

(図1：赤点線内)

① 古墳の保存・利活用の考え方及び整備方法

② 隣接市有地の利活用の考え方及び整備方法

③ 市道1672号線（東西道路）及び市道1668号線の交通機能や空間機能の考え方

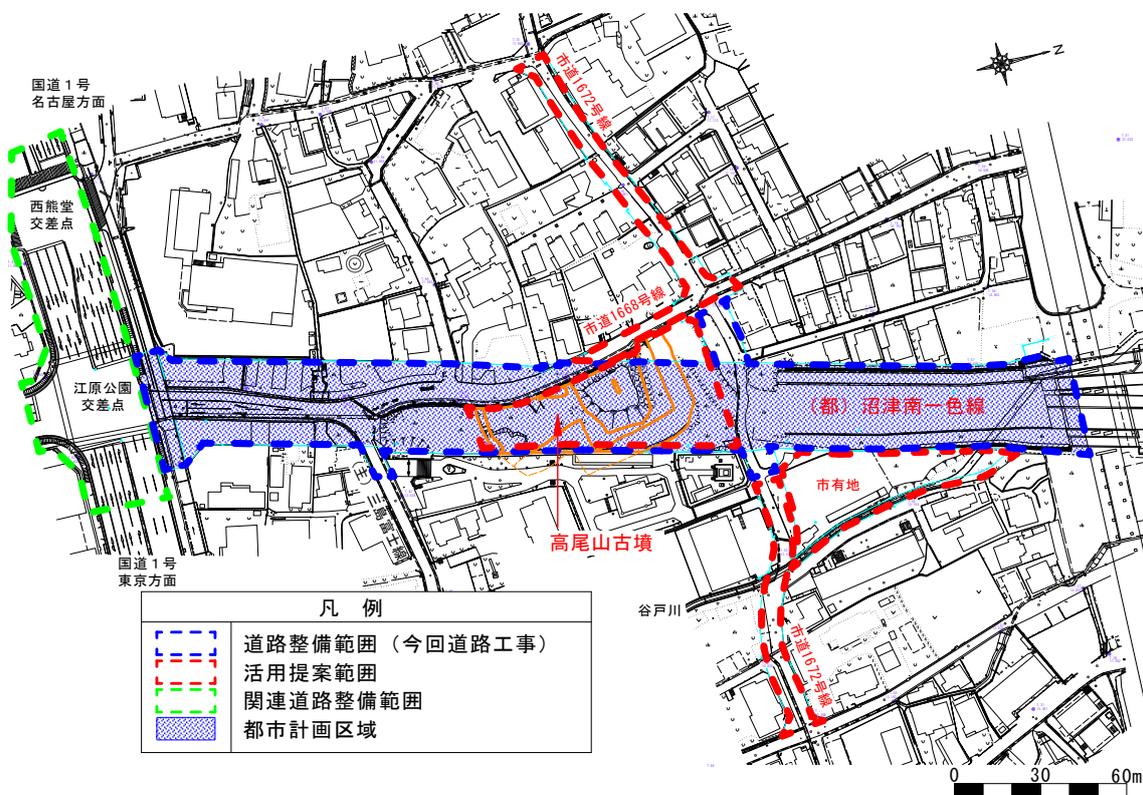


図1：提案対象範囲図

(2) 実施方法

ア 設計競技は設計競技実施委員会において、一次評価（書類選考）及び二次評価（公開プレゼンテーション）の2段階評価で実施した。

但し、一次評価通過者は5者以内とした。

イ 最優秀提案を提案した者を（都）沼津南一色線道路測量設計業務の契約交渉相手方とした。

また、本業務の受注者には、業務を通じて特段の問題がないと判断され、予算が確定された場合は、施工時のデザイン監理業務を発注する予定とした。

参考：道路測量設計業務委託の委託料上限額は1億3,800万円（消費税及び地方消費税を含む）とした。

ウ 今後、古墳の保存・利活用、隣接市有地などに関する検討業務を発注する際に契約交渉相手方とする場合がある。

(3) 賞賜金

二次評価における最優秀者に対し100万円、次点者に対し50万円、入選者に対し30万円（3作品以内）とした。

(4) 技術者の配置

技術者は、技術士として下記の該当分野の資格を有する者をそれぞれ必ず1名以上を配置することとした。共同企業体の構成員も同様とした。（同一人物が複数の分野を兼ねることは可能）なお、共同企業体の場合、管理技術者は代表企業に属する者とした。

- ・「建設部門 - 道路」
- ・「建設部門 - 鋼構造及びコンクリート」
- ・「建設部門 - トンネル」

設計競技から道路測量設計業務、施工時におけるデザイン監理業務に至るまで、デザイン面に関する一貫した監理を行うため、「デザイン監理者」を配置することとした。（照査技術者以外との兼務は可能）

デザイン監理者は、参加表明時からデザイン監理業務まで、構成員の中から同一の者を配置することとした。

(5) 設計にあたって前提とする事項（設計条件）

【工事価格条件】

概算工事費の上限は40億円（消費税及び地方消費税を含む）とした。

但し、概算工事費は「2.（1）提案を求める内容」に示したとおり、図1の青点線内に整備する橋梁・トンネル・道路附属物等に係る費用とした。

【提案対象物の前提条件】

ア 古墳の保存

- ①保存 ②復元 ③利活用

イ 道路機能

- ①橋梁 ②トンネル ③走行性・安全性等 ④交差点部 ⑤環境影響 ⑥道路排水

ウ 隣接市有地

- ①駐車台数 ②休憩スペース ③その他

エ 関連する計画・事業等

- ①景観計画 ②自転車・歩行者ネットワーク ③無電柱化推進計画
④東熊堂穂見神社の祭典について

(6) 提案に含むべき事項（要求事項）

ア デザインコンセプト（設計趣旨）及びマスタープラン（基本的な考え方）

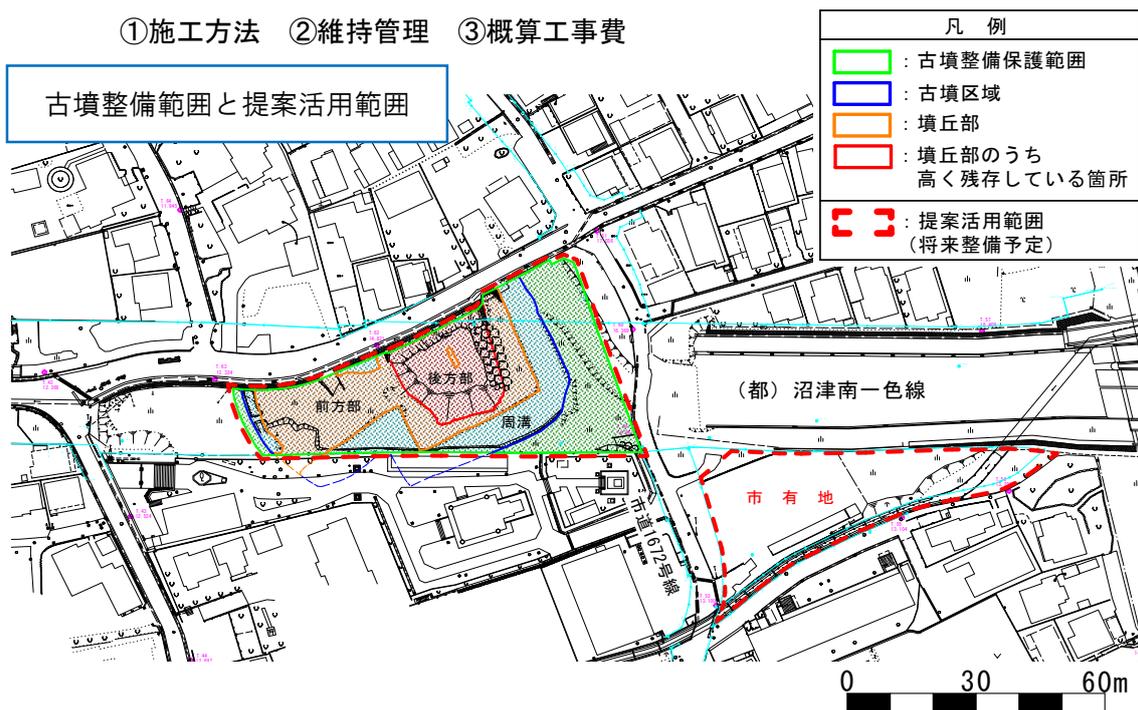
イ 道路構造物に関すること

ウ 古墳・隣接市有地に関すること

- ①古墳の保存・復元 ②利活用

エ 実現可能性に関すること（道路構造物・附属物）

- ①施工方法 ②維持管理 ③概算工事費



(7) 提案内容

一次提案書（A3サイズ 5枚以内）

ア デザインコンセプト及びマスタープラン

イ 道路デザインに関すること ①道路空間 ②橋梁デザイン ③トンネルデザイン

ウ 古墳・隣接市有地に関すること

二次提案書（A3サイズ 10枚以内）

ア 全体のマスタープラン

イ 橋梁・トンネル・古墳などのイメージ図

ウ 各種構造物の一般図

エ 道路構造物などの安全性、信頼性などを評価するもの

オ 古墳・隣接市有地に関すること ①古墳の保存・復元 ②利活用

カ 実現可能性に関すること ①施工方法 ②維持管理 ③概算工事費

※模型の作成は任意とする。また、CG等を使用してプレゼンテーションを行うことは可とする。

(8) 設計競技スケジュール

内 容	実施期間
募集要項の公表	令和元年7月24日
設計競技（募集要項）説明会	令和元年8月7日
応募予定登録書の提出期限	令和元年8月21日
参加表明兼誓約書・一次提案書受付期限	令和元年10月7日
一次評価委員会（書類選考）	令和元年10月20日
一次評価結果の通知	令和元年10月29日
二次提案書受付期限	令和2年1月31日
二次評価委員会（公開プレゼンテーション）	令和2年2月8日
最優秀提案者の決定・発表	令和2年2月28日
道路測量設計業務委託の契約締結	令和2年3月31日

(9) 評価方法

一次評価

配置技術者に関する項目	
業務実施体制	
提案内容に関する項目	
デザインコンセプト及びマスタープラン	
道路デザインの具現化	
古墳・隣接市有地に関すること	

※評価は、評価項目を総合的に判断

二次評価

提案内容に関する項目	
デザインに関すること	全体のマスタープラン 橋梁・トンネル・古墳などのイメージ図
道路構造物に関すること	安全性、信頼性
古墳・隣接市有地に関すること	保存・復元、利活用
実現可能性に関すること (道路構造物・附属物)	施工方法に関すること 維持管理に関すること

※評価は、評価項目を総合的に判断

(10) 委員等

【設計競技実施委員会】

	氏名	所属等	分野
委員長	福井 恒明	法政大学デザイン工学部 教授	景観・土木構造物デザイン
副委員長	関 文夫	日本大学理工学部 教授	構造
委員	亀井 暁子	静岡文化芸術大学デザイン学部 准教授	建築
	高瀬 要一	(前)奈良文化財研究所 文化遺産部長	文化財・造園
	阿部 伸太	東京農業大学地域環境科学部 准教授	ランドスケープデザイン
アドバイザー	杉山 僖沃	東熊堂沼津南一色線対策委員会 委員長	地域住民
	新井 久敏	(元)土木学会建設マネジメント委員・(元)群馬県職員	公共デザイン調達
	近江 俊秀	文化庁文化財第二課 主任文化財調査官	文化財行政
	藤井 幸司	文化庁文化財第二課 文化財調査官	文化財行政(代理)

3. 評価経緯、結果

(1) 第1回設計競技実施委員会

令和元年7月5日（金）14：00～16：20 プラサヴェルデ406会議室（非公開）

委員会の設置、委員長・副委員長の選出、設計競技（コンペ）募集要項の内容などについて、委員より意見を聴取するため、設計競技実施委員会を開催した。その後、募集要項について、実施方法、応募条件、設計条件、要求事項、提出書類、応募方法、スケジュール、評価基準など意見を聴取し、募集要項の内容を整理し、7月24日にデザインの募集を開始した。

(2) 第2回設計競技実施委員会（一次評価委員会）

令和元年10月20日（日）13：30～17：15 沼津市役所8階801会議室（非公開）

事務局より、募集経緯として、8月7日に設計競技（募集要項）説明会を開催（参加：11社24名）し、応募予定登録は7者（共同体含む）となり、10月7日に一次提案書7者を受理した旨を報告した。また、一次提案書と合わせて提出された応募資格や配置技術者の実績、デザイン監理者の受賞歴などを確認し、7者すべてが要件を満たしていたことを報告した。

評価は、設計競技実施委員会の各分野の専門的な知識を有する委員等から意見を伺い、一次評価通過者4者を決定した。

（一次評価結果） ※応募者名は非公開で評価

応募者7者 ⇒ 一次評価通過者4者（受付番号1、2、4、5）

（一次評価コメント）

一次評価を通過した提案内容は、橋梁のフォルムやスケール感が古墳や周辺地域と調和が図られているデザインである点、古墳整備保護範囲と市有地との動線計画が地元住民や古墳来訪者に配慮された点、古墳保存・利活用の観点においては、桁下空間の利用、古墳見学者へのバランスのよい視点場の確保、地域の成り立ちが読み取れる計画などが高く評価された。

一次評価通過者以外の提案についても、古墳を毀損しない構造物の提案や斬新な構造デザインの提案や空間バランスのよい提案であったが、橋の桁を薄くするために主塔にボリュームがあるデザイン、橋梁のタワーやケーブルの構造が大きいデザインなど、古墳や周辺地域との調和の観点において、橋梁デザインがオーバースケールであり古墳の存在感が薄れることや周辺地域との調和について懸念が示される評価となった。また、空間構成に課題が見られるものや地元の日常生活に必要な動線が不明なもの、地域内道路として重要な市道1672号線から本線に接続されていない提案内容などに懸念が示される評価となった。

(3) 第3回設計競技実施委員会（プレゼンテーション・合同質疑）

令和2年2月8日(土)13:00～16:00 プラサヴェルデ 301・302 会議室（公開）

一次評価通過者4者による、二次提案のプレゼンテーション及び合同質疑を一般公開した。本設計競技は、橋梁、トンネルを対象としたものでは全国初の取組みということもあり、関係者や土木学会、考古学会などから注目を集めた。

当日は、多くの市民や自治会関係者など、当初予定していた定員100名を上回る約140名の傍聴者が来場し、提案者からの模型を配置し開会までの時間やプレゼンテーション終了後に公開したところ、多くの市民が模型を撮影し細部まで見入るなど、本設計競技への興味や関心を持っていただいた。

本設計競技は、密集した住宅街のなかで、古墳保存と道路の両立を図るため、橋梁とトンネルを同時に構築するだけでなく、地域のシンボルとなる要素を兼ね備えている高尾山古墳や周辺地域の景観との調和がとれた土木構造物のデザインやアイデアを求めるという厳しい条件の中、技術者には、高い見識や技量が求められるものであった。このような中、全国各地の優れた提案者から、本市が求める要求や課題に対して様々な視点から向き合い、アイデア・技術力・創造性を結集した、レベルの高いデザインや高度な技術による構造などを提案していただいた。



新井アドバイザー・阿部委員・亀井委員・高瀬委員・福井委員長・関副委員長・頼重市長・新屋副市長

委員・関係者



模型一覽



委員模型閲覧



模型公開



二次提案書閲覧



発表・合同質疑



公開プレゼンテーション傍聴

(4) 第3回設計競技実施委員会（二次評価委員会）

令和2年2月8日(土)16:10～17:30 プラサヴェルデ 406 会議室（非公開）

公開プレゼンテーションの終了後、設計競技実施委員会の各分野の専門的な知識を有する委員等が意見交換をしながら評価を行い、いずれの委員も同じ評価となった。その後、評価した意見を基に整理した結果、最優秀提案を決定した。

(二次評価結果)

一次評価通過者4者 ⇒ 最優秀提案1者、次点1者、入選2者

受付番号	応募者	評価結果
1	(株)エイト日本技術開発静岡事務所 ・ (株)イー・エー・ユー	最優秀
4	パシフィックコンサルタンツ(株)静岡事務所 ・ (株)Tetor	次点
2	協和設計(株)浜松営業所	入選
5	(株)オリエンタルコンサルタンツ静岡事務所	入選

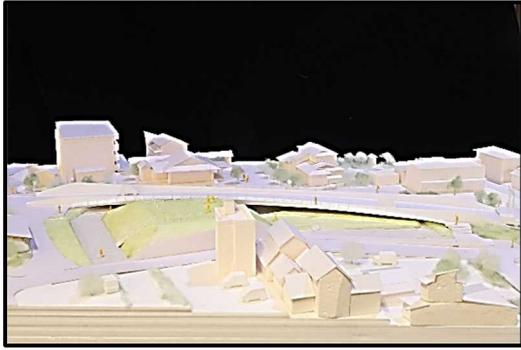
※入選は受付番号順

【最優秀提案】 : 受付番号1 ふるさとの風景をつくる「みちにわ」

【応募者】 (株)エイト日本技術開発 静岡事務所

(株)イー・エー・ユー





(最優秀提案の選定理由)

- ・ 古墳保存の観点では、道路構造物（橋梁・トンネル）の設置の際に、古墳を毀損せずに配置することが可能な点や、施工方法に関しても古墳区域に重機を設置しない施工方法を採用することで、古墳保存の影響に配慮している点が評価できる。
- ・ 道路・古墳・隣接市有地の整備や地元への配慮などを踏まえ、構造物は、古墳を主役としたシンプルかつ構造上合理性の高いフォルムであり、周辺地域の景観との調和がとれた公共空間を実現することが可能である点などが評価できる。
- ・ 利活用において、橋梁横に歩廊を取り付けることで、古墳を見渡せる視点場が増え、地域住民も日常的に通過することも可能であり、歩行者、来訪者などの安全な動線が確保できる。
- ・ 古墳周辺の北側広場や隣接市有地から、古墳、神社、谷戸川などと一体的につながる空間として、地域住民や古墳来訪者に配慮され、市街地の動線に馴染んでいる。また、隣接市有地は、地域住民の憩いの場としての拠点づくりや、様々な活動が行える優れたオープンスペースとしてデザインされている。
- ・ 提案を通じ日常生活が感じられ、非常に親しみやすい空間が創出されており、コンセプトやデザイン、マネジメントまで利にかなったものである。また、構造物、文化財の保護、地元への配慮に優れている点などから、総合的に評価し、最優秀提案として評価された。

【次点】： 受付番号4 築土構木へ立ち返る

【応募者】 パシフィックコンサルタンツ(株) 静岡事務所
(株)Tetor



(評価)

- ・古墳保存の観点では、道路構造物（橋梁・トンネル）の設置の際に、古墳を毀損せずに配置することが可能な点や、施工方法に関しても古墳区域に重機を設置しない施工方法を採用することで、古墳保存の影響に配慮している点が評価できる。
- ・地下空間を利用し橋台内部に展示室を作り古墳を回遊する動線を確保することで、一体的な空間を整備することが期待できる。
- ・一方、神社と古墳区域を一つのリボンとして描いた回遊路に関することについて、保存する周溝の堀の断面形状の確保が困難であること。また、一つのリボンで描かれた回遊路が神社等の協議によって整備出来なかった場合の本提案のコンセプトの実現性、また、閉鎖的な空間として懸念される地下空間の利用について、治安や防犯対策などの課題が考えられる点などから、次点として評価された。

【 入 選 】 : 受付番号 2 伝承のみち～古代と未来をつなぐ～

【応募者】 協和設計(株) 浜松営業所



(評価)

- ・ 求めた提案内容に対し様々な視点で具体的に表現しており、隣接している神社へ配慮している点などは評価できる。
- ・ 動線計画では、社務所を移転せず神社側の動線に配慮している。
- ・ 一方、古墳北側に展望台などの付加的な施設配置によって、他の案に比べ古墳の眺望が一部阻害されることが懸念された。また、他の案に比べ橋梁の橋脚が周溝部に入り古墳を一部毀損していたことや、施工時において古墳区域内に重機を設置することなど、古墳保存の観点において課題があったことなどから、入選として評価された。

【 入 選 】 : 受付番号5 スルガの記憶をまもり文化をつなぐ

【応募者】(株)オリエンタルコンサルタンツ 静岡事務所



(評価)

- ・コンクリートと鋼構造を組み合わせた橋梁デザインは、秀逸な土木デザインである。また、橋梁を高くすることで、東西道路の交通の安全確保や桁下空間の最大活用、橋梁と古墳の離隔を確保する点など評価できる。
- ・高い桁下空間を利用し、古墳を最大限に復元可能することや学習ガイダンス施設の拠点となるスペースを確保できる。
- ・(都) 沼津南一色線と市道 1672 号線を立体交差とすることで、東西道路の円滑化に配慮されていたが、車窓からの古墳の眺望が一部阻害されることが懸念された。また、他の案に比べ橋梁の橋脚が周溝部に入り古墳を一部毀損していたことや、橋梁の構造について騒音振動の影響が懸念された点などから、入選として評価された。

4. 総 評

【福井委員】

委員長 法政大学デザイン工学部 福井恒明

<はじめに>

まず、沼津のために知恵を絞っていただいた応募者の皆さん、評価にあたってくださった委員の皆さん、公開プレゼンテーションに駆けつけてくださった市民の皆さん、前例のない設計競技実施のために奔走された市職員や関係者の皆さんにお礼を申し上げたい。

本設計競技の発端は、高尾山古墳を保存しながら市道を建設するにあたってのアドバイスを求められたことにある。そのとき、上下線をそれぞれトンネルと橋梁として建設することはすでに決まっているとの説明を受けた。現地の状況と計画内容を確認した結果、これは広い意味でのデザイン、歴史や文化財に関する見識、構造設計や施工技術などの知恵を総動員しなければ解決できない難題だと感じ、日本の土木分野では例の少ない設計競技の実施を提案した。

幸い、土木学会が検討を進めていた「土木設計競技ガイドライン」が公開されるタイミングと重なった。ガイドラインの検討に携わった関係者にご協力いただきながら、設計競技実施の前提となる「都市計画道路沼津南一色線道路設計等に関する基本計画書」を作成した。通常の公共事業の発注では、具体的な作業内容をできるだけ解釈の違いが生じないように明示する。これに対して設計競技では達成したい要件を示し、その場の制約条件の中でそれを実現する考え方や具体的な構造物や空間の提案を求める。公共事業で「知恵を募る」仕組みをつくることは思った以上に難航したが、事務局と委員の協働でなんとか実施にこぎ着けることができた。

<評価経過>

一次評価には7件の応募があった。古墳保存と構造物・空間とのバランスや、地域全体に対して目配りのされている4件に対して二次提案を求めることにした。どの提案も厳しい条件のもとで工夫した提案が見て取れた。

二次提案を求めるに至らなかった受付番号3は、斜版橋の採用による古墳の毀損抑制を目指したものの、突出したスケールを持つ構造物が古墳や地域と相容れないと判断された。受付番号6は、市道との平面交差を求めている要項に対し、代替機能の具体的な提案がなく立体交差とし、構造物としても圧迫感が大きいものとなってしまった。受付番号7は、古墳の利活用についての提案は評価できるものの、斜張橋の塔のスケールが古墳や周辺地域から突出していると判断された。

二次評価には提案を求めた4件すべてから提案があった。公開プレゼンテーションのあとの評価では、各委員の専門分野の観点から優れている点や懸念点について発言していたが、その内容を共有しながら注意深く議論を進めた。文化財保護、日常的利用、祭礼時利用、ランドスケープ、構造物、施工など、多くの観点から評価を行った。

最優秀案となった受付番号1「ふるさとの風景をつくる『みちにわ』」は、日常の安全安心、古墳の保存活用、空中歩廊を含む空間体験の考え方、神社祭礼時の利用、施工への市民参加など、すみずみまでよく考えられていた。考え方から技術までのバランスがよく、それらが周囲にあったスケールの構造物で実現されていた。

受付番号4「築土構木へ立ち返る」は、対象地に対する大スケールでの把握と深い歴史的な理解をベースに、土木構造物が作る空間の可能性を固定観念にとらわれずに広げ、高尾山古墳の価値を顕在化させる提案として高く評価された。しかし、本提案の本質を実現するには、敷地範囲拡大などの設計条件を大きく変えなければならないと判断されたこと、本提案の要のひとつである回遊路が古墳周溝の断面形状確保と両立できない部分があることから次点とした。

受付番号5「スルガの記憶をまもり文化をつなぐ」は、市道1672号線との平面交差を接続路付きの立体交差で代替することで、橋梁設計条件を有利にしたものである。これにより実現される空間の質に期待して二次提案を求めたものだったが、桁下空間の高さを確保し、桁裏を美しくデザインした効果よりも、墳丘部の存在感を減じてしまう橋の高さ、市有地の多くを接続路に使ってしまうことのマイナスが大きいと判断された。

受付番号2「伝承のみち～古代と未来をつなぐ～」は、ドライバー・歩行者・見学者などの視点を丁寧に検討したことや、地域の利用に対する目配りが評価されたが、構造物や柵などの個別部位のデザインの主張が強いこと、地下道や展望台設置の効果とメンテナンス等のバランスなどから、他案に伍する評価を得るには至らなかった。

<本設計競技の成果と改善点>

今回提案された7つの案、特に二次評価に進んだ4つの案には、我々が想像した以上に優れた提案が含まれていた。設計競技実施検討前の試設計案を思い浮かべると、本設計競技によってはるかに合理的な案が得られたといえる。さらに、同じ設計条件に対して様々な解決方法がある可能性を示したことは、今後の沼津市の地域づくりによい効果をもたらすと考えられる。また、二次選考のプレゼンテーションに多くの市民の皆さんや担当外の市職員の皆さんが集まってくださった。この関心の高さは沼津市の先進性を表していると考えられる。

その一方で、今後設計競技を実施する際に改善・検討すべき点もある。

二次提案を求めた応募者に対する一定の報償（賞賜金）は確保されたものの、設計競技が普及した海外に比べれば十分ではない。提案に際して応募者が投入した知恵への報償はもっと高めるべきである。一定水準を超えた提案をした者が報償を得られなければ、設計競技に参加するプロの技術者はいなくなってしまう。

公開プレゼンテーションでは応募者が発表するにもかかわらず、資料上匿名扱いとしてしまったことは配慮が行き届かなかった。顔が見えている以上、名前を出しても二次評価の公平性に実質的な影響はない。知恵が属人的であることを認めるのは設計競技の前提である。

市道 1672 号線との平面交差を設計条件としたにもかかわらず、これを立体交差とする案が複数あったことは、設計条件の合理性に対する応募者からの疑義表明であると捉えられる。つまり下り線を橋梁として古墳の毀損を避けることと市道 1672 号線との平面交差を両立させることに無理があるという指摘である。本設計競技の設計条件のうち、市道 1672 号線、国道 1 号線との接続が提案内容に与える影響は大きい。高尾山古墳保存の議論や地元協議の経緯により、この設計条件について議論することはできなかったが、かなりシビアな条件であったことは認めざるを得ない。「平面交差」という形状での指定ではなく、「市道から計画道路を経由して国道 1 号線へのアクセスを確保する」という機能を条件として記載する方が、より創造的な提案を引き出すことができた可能性が高い。合理的な解決方策の提案を可能にする設計条件の設定は事業の初期から注意深く考えておく必要がある。

<おわりに>

古墳全体に相当する敷地を確保できていない今回の設計競技では、復元部分の拡張や周辺敷地の改変を含んだ提案が多かった。そのため、提案の本質的部分の現条件での実現性と、将来の可能性のバランスを考える必要があった。どこまで提案内容を引き受けられるのかを踏まえて評価することは我々委員にとっても大きな挑戦だった。

本設計競技の結果をもとに、今後は具体的な設計に進むことになる。これからは正念場である。計画の具体化により、住民の皆さんが地域に誇りを持ち、安心して快適に生活できる環境が一日も早く実現することを期待している。

【関委員】

公の土地を共の空間とするための土木設計競技

副委員長 日本大学工学部 関文夫

日本の道路事業で、初めて設計競技が行われた沼津南一色線道路は、数多くのメッセージを残してくれました。土木設計競技が行われた背景には、早期に情報公開された公共事業という観点があります。近年の公共事業では、ある日突然、住民説明が行われ、事業ありきという流れから、住民に理解されない公共事業も多々あります。早期に情報開示し、どういうことが議論されながら、どのように決定されているのかを明確にし、住民に理解された公共事業を目指すスタイルが、この土木設計競技という手法なのです。今回の課題は、決して易しい課題ではありません。文化財保護と道路事業を両立させながら住民生活の日常を大切にしなければならぬという難易度の高いものでした。

これらの課題に対して、最優秀案となった受付番号1の案は、古墳内には橋脚を設けず一気に跨ぐ橋梁の案と、その橋の片側に見学通路を設置し、4つの拠点を繋ぎながら古墳の資産価値を向上させている点、そして最も高く評価されたのが、生活者へ対する配慮の視点です。市有地の公園のデザインも決して華美なものではなく隣とした空間をつくり、日常生活の中で、古墳を眺めながら生活する生活者への配慮のバランスが高く評価されました。

そして、次点となった受付番号4の案は、“土木デザインに対する挑戦“を感じました。これからの土木デザインは、これぐらい必要なのでは？という強いメッセージを突き付けてきた作品と言えます。古墳を守る点、橋台内部まで巧みに建築的に利用する点、回遊性に満ちた動線、徹底したヒューマンスケールと古墳との対峙、そして、シンプルに土を掘ったら盛るというシンプルな行為から、新しい沼津をプロデュースするまでのメッセージが込められていました。残念な点は、古墳の残さなければならない領域の解釈にズレが生じており、残念な結果となりました。

受付番号2の案は、古墳の利活用に着眼し、私有地広場と展望広場を繋ぎ、古墳への多彩な視点場を設けた案は魅力的なものでした。力強いCG画像を中心に、力強いプレゼンテーションでしたが、生活者の視点から評価すると古墳への観光地としての目線が強すぎて、生活空間としての配慮に少し欠けていたように思えます。これからも古墳と暮らす地域住民とすると平穏なしつらえが必要だったのではと思います。

受付番号5の案は、東西道路と南一色線を立体交差させることによって、桁下空間を快適に確保するだけでなく、古墳そのものの復元できるスペースを確保した点が高く評価できると思います。しかし、アクセス道路や橋梁のボリュームという観点から土木構造物が空間で占める割合が大きく、古墳の存在より道路事業という点が強く印象に残りました。土木技術としては、合理的な解決策を講じているのに、空間のスケールが議論された作品でした。もう少し大きな古墳であれば、バランスが図られたのかもしれませんが。

今回の土木設計競技では、“土木デザインの考え方”というものを強く感じさせてくれました。土木デザインは、技術者や設計家の思い込みのデザインではなく、様々な利用者の視点に立ち、「公の土地を共の空間とするための価値創造である」と、改めて認識させてくれました。

設計競技を実施した沼津市行政の判断、作品を提出してくれた企業、公開プレゼンテーションに参加いただいた市民の皆様に感謝申し上げます。

【亀井委員】

静岡文化芸術大学デザイン学部 亀井暁子

今回設計競技は道路整備を核としながらも、歴史的要素である古墳との関係、地域の生活空間との関係、隣接する神社の空間性保持への配慮等、多面的な検討に基づく提案が求められるものでした。これらの総合的解決に挑む提案はいかなるものであるのか、また道路という大きな構築物をいかにして人のスケール・地域のスケールと関係づけていくのか。提案に大きく期待を寄せていました。

受付番号1は、古墳を一切毀損しないダイナミックなデザインでありながら、道路に空中歩廊を伴うことにより、古墳への新たな視点場を提供し人々の活動を道路のエッジに生み、細やかなスケールを創り出す提案でした。歩廊を付加することによる道路ボリュームの増大が悩ましくもありましたが、今回設計競技において総合的解決が必要とされている点が決定的に検討された提案でした。

受付番号2は、神社空間の静粛さの保全の観点で配慮のある提案でした。また景観デザインの具体的提案によって人のスケールに近づけるための配慮が確認できました。掲げた全

体コンセプトをより地域に寄り添うあり方で展開させることができれば望ましかったと考えます。

受付番号4では、古墳築造のプロセスを現代に継承するという今回計画の本質をとらえたコンセプトのあり方を、計画案全体に通底させることが試みられていました。土のやり取りの可視化など、全体理念を設計プロセスも含めて完遂しようとする、意志のある提案であり、施設管理上の懸念等の課題はあるものの、人のスケール・地域のスケールの観点でも良質な提案がなされてきました。全体から詳細に至るまで一貫性のある大変力強い提案でした。

受付番号5は、立体交差を提案する意欲的な案でした。この提案により古墳周辺において道路下部空間の利用可能性が広がる利点がある一方で、古墳の存在感を減じてしまうという、相反する課題が併存していました。また、立体交差に伴う隣接市有地の利用への課題が残りました。

一次選考段階より、数々の貴重な提案を頂きました。大変意欲的で真摯な案を作成・ご提案頂いたことに感謝し、またこのために費やした労に深い敬意を表します。今回設計競技を通じて、都市的スケールの道路から景観を構成する詳細要素まで、一連の理念とデザインにより連続性をもって環境を創出するアプローチの可能性が示されたと考えます。本計画が今後どのような形で実現されるのか、期待頂きたいと思います。

【高瀬委員】

(前) 奈良文化財研究所 文化遺産部長 高瀬要一

高尾山古墳という第一級の古墳が都市計画道路予定地で見つかったことから、相当な時間と紆余曲折な経緯を経て今回の設計競技に至ったのだと思います。古墳の保存か、それとも生活の利便性を優先すべきかという一見相容れない問題に沼津市当局も相当頭を悩ましたことでしょう。関係者の理解と努力が実り、遺跡保存はもとより道路計画（橋梁とトンネル）としても初めての設計競技に至りました。まず初めに文化財保存に携わる者としてこの道程に最大の敬意と感謝を申し上げたいと思います。

設計競技をやって本当に良かったという感想です。道路設計に携わる方々が真剣に遺跡保存を考える契機になったことと思います。

道路と古墳の共存という課題に対していろいろなアイデアが出て参りましたし、一次評価には7件もの応募がありました。以下はどちらかという遺跡保存という立場から評価になりますが私見を記します。

2次評価の対象となった受付番号1・2・4・5の4案に対する評価です。まず、受付番号2と5については周濠内に橋脚を設置する案です。古墳を取巻く周濠は古墳を構成する重要な要素であり、これを一部とはいえ破壊する計画です。破壊するデメリットに対する多少の利点があることを勘案してもなお高尾山古墳に及ぼす大きなダメージは根本的な問題が残ると判断しました。

残るは受付番号1と4です。受付番号1は橋梁の古墳側に見学デッキが計画されており、ユニークなアイデアだと思いました。このデッキは古墳見学目的の来訪者のみならず近隣住民の通過利用にも応えるものであり存在価値は高いと思います。見学に来られた人にとってはデッキから復元整備された古墳の全体像を把握できるし、近隣の方々にとっては普段の生活の中で古墳を目にすることになり、故郷の歴史を知るきっかけになるものと思います。

受付番号4は来訪者用駐車場から約30mの地下道を経て、道路を横断することなく古墳にアプローチできる点と、出口から古墳を一周する園路が設定されているのが特色です。地下道は現代から過去に遡るタイムトンネルに見立てる展示も可能であり、それなりの魅力はあるのですが、地下道がデッドスペースとなる危険性も懸念されます。一周する園路は神社境内地内を通過し、境内から古墳へ自由に行くことができます。神社サイドの理解が必要となりますがその点が気がりです。

【阿部委員】

東京農業大学地域環境科学部 阿部伸太

時代によって価値観は異なることがあります。一般的に、今回の都市計画道路が図面に引かれた時代は今以上に経済優先であり、その土地の歴史的資源はないがしろにされがちで

した。それが今、人口減少や少子高齢化の中で、地域の魅力を高めるための取り組みがなされるようになりました。しかし、その中にはその土地が持っているそれまでの文脈から外れた唐突感のあるデザインや仕組みが展開された結果、大切なものを失ってしまったことも少なくありません。そうした中、自然的、歴史的資源を大切にしまちづくりは、そこで暮らすことの意味を生み出します。それは、機能性や経済性が最優先であった時代から、そこに独自性と持続性が付加され、無理なく、しかも魅力的な地域形成に自ずとつながっていきます。

今回、関わらせていただきましたコンペは、道路という社会的機能を発揮することが大前提でありつつも、インフラとしての構造的・管理的合理性を満足しつつ、沼津市高尾山古墳という場所性を踏まえた「風景」と「暮らし」を紡いでいくことが求められました。それまでは相反する要求として捉えられがちであった中で、こうした事業を実現させた方々に心より敬意を表したいと思います。

最優秀になられた作品・「みちにわ」は、地域を分断し、通過してしまう「みち」という存在に、「にわ」という滞留させ、人と人をつなぐ舞台を明快に組み込んでおり、しかもその「にわ」は、対象地の歴史的資源である古墳を日常の風景として認識できる視点場を歴史的景観になじみにくい「橋」をうまく活用して創出している点に好感がもてました。他の作品にみられるように、確かに土木構造物の橋やトンネルの設計者にとっては、モニュメンタルなデザインを行いたくなるどころかとは思いますが、全体的に階高の低い街並みの中で富士山をはじめとする山並みが象徴的に存在する対象地において、最優秀になられた作品は、橋やトンネルが前面にたった主張をしない、しかし柔らかなラインによって味のある名脇役的な立ち位置に徹している点も「ふるさとの風景をつくる」というコンセプトの具現化に成功していると思われまます。さらには、隣接する河川との親水性を実現した園地デザインや対象地内の回遊性、周辺地域との連続性を確保しつつ、しかし神聖な神社とはやんわりとした隔絶と一定の距離感をもった動線になっている点など、現況解析からはじまり、コンセプトメイキングとその具現といったランドスケープデザインとしてのバランスが優れていたと言えます。

今後、このプランをもとに実施設計、施工を行っていく中で、様々なハードルが続くとは思いますが、できるかぎり妥協することなく、たとえ譲らなければならないことが発生してもうまく「風景として」修めていくことに期待したいと思います。

参考資料

(都) 沼津南一色線設計競技 (コンペ) アンケート①

一次評価通過者(4者)の一次提案書を沼津市ホームページで公開し、市民アンケートを実施した。また、アンケート結果については、参考意見として設計競技実施委員会へ報告した。ただし、アンケート結果の内容については、評価対象としないこととした。

アンケート内容

Q 1 あなたの性別を教えてください

A 1 男性 女性 その他

Q 2 あなたの年齢を教えてください

A 2 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

Q 3 あなたのお住まいを教えてください

A 3 市内 市外 (県内 県外)

Q 4 デザイン案を選ぶ際に、あなたが重視する点を教えてください ※複数可

A 4 橋梁・トンネル、道路付属物等の道路デザイン等

古墳との調和

近隣地区との調和

道路構造物(橋梁・トンネル・道路付属物)のデザイン(色彩・形状)

道路構造物の安全性

古墳保護への配慮

古墳の保存・利活用

古墳の保存方法

古墳の復元方法

古墳のデザイン

古墳の利活用方法

隣接市有地の利活用

隣接市有地の利活用方法

全体に関すること

全体の整備コンセプト

全体(道路・古墳・隣接市有地)のバランス

全体のデザイン・色彩

その他(上記以外に重視する点について、100文字程度で記入してください)

Q 5 あなたが良いと思うデザイン案を選んでください ※複数可

A 5 受付番号1 受付番号2 受付番号4 受付番号5

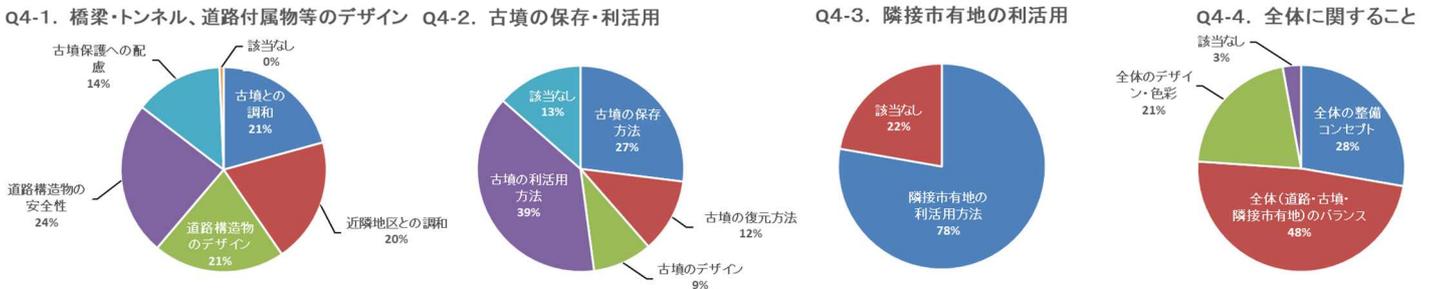
アンケート結果①(一次評価通過者:4者)

実施日：令和元年11月7日～12月6日

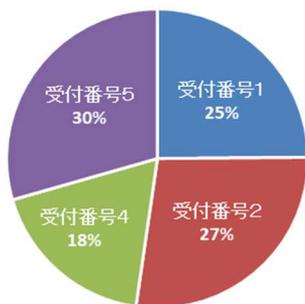
アンケート回答数：153件



Q4.デザイン案を選ぶ際に重視する点



Q5. 良いと思うデザイン案



主な意見

- ・わかりやすい道路整備及び渋滞緩和の整備
- ・周りに合うデザインがいい
- ・交通の円滑化が考慮されているか。
- ・新しく道路を作っても渋滞してしまうのであれば改善にもならないし、住環境にも良くない。
- ・古墳の保存もいいが、交通安全第一で進めてほしい。人命第一。
- ・橋梁に関しては、目立たず、控えめなデザインが望ましいと思います。
- ・古墳の保存よりも、道路の安全性、交差点の安全性を重視していただきたい。
- ・トンネルの長さはできるだけ短くしていただきたい。
- ・低コストで、集客があり、経済効果のあること。
- ・近年、逆走等の事故が多いので、道路利用者へわかりやすい交差点、道路線形に配慮し、複雑な形状を避ける。
- ・道路を走行する車両の安全と通学や生活で利用する歩行者の安全性を第一に。
- ・多くの市民が納得し、古墳を保存してよかったと思えるように、整備を進めてほしい。
- ・古き時代に作られた古墳が、この位置にできた理由がイメージできるか。
- ・古墳の特徴ある地層等が、可能な範囲で表現できているか。神社・明治史料館等、周辺地域の回遊性が図られているか。
- ・古墳の毀損が無いことが第一。古墳から道路が目立たなく、観光資源としての景観、利便性にも配慮願いたい。

(都) 沼津南一色線設計競技 (コンペ) アンケート②

最優秀提案者の決定に向けた、一次評価通過者4者による公開プレゼンテーションを開催した。本設計競技のデザインコンペは、橋梁とトンネルを対象としたものでは全国初の取組であり、今後の業務の参考とするために、来場者の方々にアンケートを実施した。

アンケート内容

Q 1 あなたの性別を教えてください

A 1 男性 女性 回答しない

Q 2 あなたの年齢を教えてください

A 2 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

Q 3 あなたのお住まいを教えてください

A 3 市内 市外 (県内 県外)

Q 4 今回のデザインコンペ (公開プレゼンテーション) を傍聴した目的について※複数可

A 4 コンペの内容・テーマに興味があった デザインコンペに興味があった
知人・友人等に誘われたから その他 ()

Q 5. 今回、新たな手法として実施したデザインコンペの取組みについて

A 5 満足 やや満足 普通 やや不満 不満

Q 6. 今後、土木デザインコンペを実施することについて、どう思いますか

A 6 住民・施設利用者の立場から見て、
実施すべきである どちらともいえない 実施すべきではない

Q 7. 本日の公開プレゼンテーションの感想をお聞かせください

A 7 満足 やや満足 普通 やや満足 不満

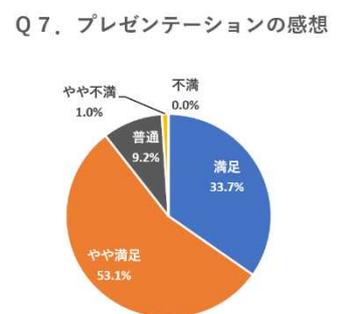
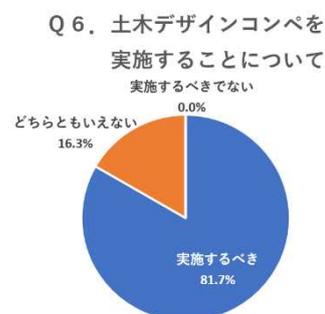
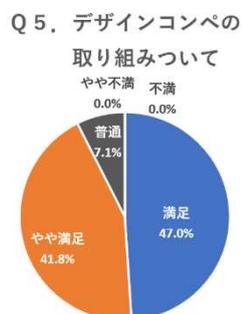
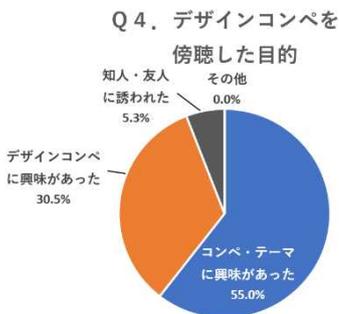
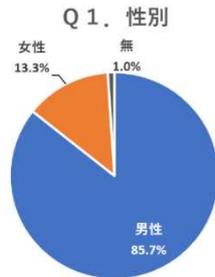
Q 8. 自由意見 (Q 5, 6, 7についてご意見をお聞かせください)

A 8

アンケート結果②（公開プレゼンテーション）

実施日：令和2年2月8日

アンケート回答数：98件



主な意見

- ・4案のうち1案となりますが、それぞれの方の考えが他の方へのヒントになって、よいものが作られるように、これからの設計に生かしていただければと強く思いました。
- ・聴いている人が引き込まれるほどの良いプレゼン。
- ・質疑応答時に聞き入る来場者の姿が印象的でした。公開で開催されたのが非常に良かった。
- ・全国初の取り組みとのことで興味を持ちました。
- ・どの提案が選ばれるか分かりませんが、素晴らしいものが出来上がることを期待しています。
- ・今後もこのような先進的な取り組みを続けていただければと思います。
- ・すべての提案者が、同じ仕様・規格の断面図、平面図などを用意して、容易に違いを比較できるようにしてほしい。それぞれの案の違いを容易に比較できないと良し悪しが判断できない。
- ・今後の土木工事には、経済性、安全性だけでなくデザイン性も非常に大切である。
- ・どの提案も古墳に配慮している。ただし、周辺の住民がもっとも懸念していることは、騒音と排気ガスである。このことを踏まえて設計していただきたい。
- ・100年後を見据えた、人に優しい、古墳にも優しいまちづくりをお願いしたい。
- ・いずれも古墳の保存を考慮し、大変すばらしいデザインだと思います。自慢できるまちづくりを期待しています。
- ・古墳は既に一部削られているので、これ以上の変更を加えるべきではない。
- ・国の史跡指定を一日も早く受けるべきだ。
- ・思ったより、歴史や地域のことを考えていただきありがたかった。
- ・公園だけだと遺跡の価値が分かりにくく、教育やイベントのための出土品の展示や学べる場が敷地内にある必要があると痛感した。

都市計画道路沼津南一色線

設計競技（コンペ）実施記録

担当課：沼津市 建設部 道路建設課

電話：055-934-4779

F A X：055-934-4782

E-mail：douro@city.numazu.lg.jp

担当課：沼津市 教育委員会事務局 文化振興課

電話：055-934-4812

F A X：055-931-8977

E-mail：cul-sinkou@city.numazu.lg.jp

令和2年4月発行